

府中市健康地域づくり審議会  
第11回次世代創造分科会 報告書

- 1 日時：平成27年8月19日（水）13：30～15：00
- 2 場所：府中市役所2階 第1応接室
- 3 出席者：谷 秀 樹（分科会会長）  
吉 原 純（分科会委員） 宗 藤 正 典（分科会委員）  
水 主 川 緑（分科会委員） 坂 永 弥 生（分科会委員）  
寺 岡 暉（職権委員）

4 概 要

- (1) 開 会
- (2) 分科会長あいさつ
- (3) 議事
  - ①議題1 施策の進捗状況
    - ・子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について
    - ・少子化対策関連事業について
  - ②議題2 政策指標の目標値設定
- (4) 事務連絡
- (5) 閉会

【主な質疑・意見】

委員；事業所内保育施設の認可は、子ども子育て支援事業計画の中でやっていかなければいけないということか。

事務局；そのとおり。

委員；利用定員の地域枠は1歳が1名となっているが、地域枠は1歳に限定なのか。

事務局；1歳に限定ということではなく、5人の枠のうちの1人を地域枠とし、その中で1歳の子どもを見込んでいるということ。

委員；この5人に対して看護師は何人なのか。

事務局；保育所の認可基準に適合する保育士数のうちの1名を看護師または准看護師に代えても良いことになっている。

委員；「マリッジ・トレーニング（マリ・トレ）」というのは、「結婚養成」ということか。

事務局；「婚活支援」ということ。婚活に入る前の準備をするような内容。

委員；今回からは男性も参加をされるということだが、1回から3回まで通して同じ人が参加するのが原則か。

事務局；その予定である。

委員；前回の講座の参加者数はどうであったか。

事務局；予定していた定員はほぼいっぱいになった。今回は男女各20人の定員としているが、周知の方法についても何かいい方法があれば皆さんにお伺いしたい。

委員；女性起業支援補助金の対象者は配偶者の有無は関係あるのか。

事務局；関係ない。

委員；事業の種類は何か決まっているのか。

事務局；特に定めていない。最終的に審査を行うが、対象外としているもの以外は基本的には認める。初めて立ち上げる事業なので、できるだけ多くの人にチャレンジしていただきたいと考えている。

委員；会社でも、個人事業でもいいのか。

事務局；どちらでも良い。

委員；不妊治療の助成について、対象は広島県の不妊治療助成事業が決定している方となっているが、それに加えて府中市の助成が受けられるということか。

事務局；そのとおり。不妊治療は、40～50万円かかると言われている中で、県の助成が15万円あり、その差額を府中市が助成するという制度設計となっている。

委員；不妊治療を受けたくても1人子どもを産んでいたら、順番が回ってこないということ最近よく耳にする。2人目が欲しくても治療を諦める人が多いと聞いた。また新たな課題があると感じた。

また、マリ・トレの内容を見てみて、参加者の方がどういう反応があるのか、すごく楽しみ。

事務局；今後、広報ふちゅうやちゅちゅ、ホームページからも案内する予定。

委員；広報を上手にしてもらいたい。

委員；男女共同参画フォーラムは、参加者が少なく、加えて年配の人が多かったので、若い人に聞いてほしかったと感じた。

中学生の事業について、講演会となっているが、講師の方がどんな方かよくわからないが、若い人にアピールしようと思ったら、知名度もあって楽しく、あの人が言うなら…と思えるような講師がいいと思う。お金のかかる方を呼んでも効果があるのかなと思った。

事務局；講師については、NPO法人ファザーリングジャパンという全国組織の方で、いろいろなところで講演をされている。カッコいいお父さんのような方。若い世代からの意識作りが重要ということで、今年はその第一歩を踏み出して次につなげていけたらと考えている。

委員；この年代に投資するというのはこれから育つ子どもたちにとっても役に立つと思う。学問だけではなく、こういう勉強も合わせてするというのは、とてもいいと思う。マリ・トレも受けてみたい。

委員；マリ・トレでは、講座を受けて自信がつくとすぐ発揮したくなると思うので、例えば、同じ時間に別室で講座を受けて、直後に対面させ、別室で各々磨いたことをその場で発揮するというはどうか。時間をずらさずに、2部構成で行えば、第3回のときにはカップルができているのでは。

委員；同時並行で行い、一回で顔合わせをするというのがいいのかもしれない。

委員；待合室で少しすれ違うだけでもいいか。

委員；広島県や府中市の総合戦略に準じた比較できるようなものも入れていかなくて

はいけないのか。

事務局；府中市はこれから論議が始まるので今準備をしている段階であり、第4次総合計画に合わせて総合戦略も策定していくこととしている。その中で、分科会での意見を元に庁内で総合的に検討していきたい。

委員；ここでは指標を3つに絞るということであるが、それぞれ有益なデータだと思う。全部追ったらどうか。

府中市総合戦略との関係で、府中市の企業で働く人の数、あるいは小規模事業場も含めて企業の数と人口と非常に関係が深いと思う。人口は経済の発達と非常に関係が深い。府中市の経済の状況がどうなっているかということと、人口の推移と非常に関連が深いと思う。総合戦略との絡みで企業の数、働く人の数が大切だと思う。この参考資料で人口推移が出ているが、減り続けているばかりなのか、ある時期増えてそれから減り始めたのかという経過がわかれば、参考になるのだが。

事務局；1970年（昭和45年）から下がり続けているというデータがある。そこまでは上がり続けていた。

委員；上がっていた時期がどういう時期だったのか。発展した時期だと思うが。

事務局；日本が一番多かったのは平成20年くらい。府中市は随分前にピークを迎えているという状況。日本は少子化で落ち始めたのはつい最近。府中市は早熟型の市だったということ。

委員；子育てや出生だけにフォーカスを当てても全体像が掴めない。その全体像の中で、どういう位置づけかということにするためには、なるべく統計を幅広くとって、その中でどうやっていくかというのを見ていきたい。指標を限るのではなく、統計は幅広くとっていただきたい。

事務局；事務局案として3つ提案した数値については、目標値として掲げなくても数値として追っていかなくてはいけないと考えている。その中で実際に総合戦略にも掲げる目標値についてはいくらか絞っていきたいと考えている。この3つの数値はどれも追っていく必要があると考える。総合的に考えないと合計特殊出生率が上がっても、女性の人口が減ってしまえば結局人口が減ることになるので、多方面から検証していく必要がある。

委員；統計は結果に結びつくということは結果論になるが、府中市の統計は大変優れているということも大切。あまり限らないで多くの統計を取ることも必要かと思う。

委員；実際に、府中の企業数や働く人の数等の統計はあるのか。

事務局；他部署でとっている。

事務局；今年の10月に国勢調査があるが、これが一番正しい数値となる。

委員；昔から府中市は小規模事業所が多く、非常に働く人が多いという特徴があった。

それが、医療も活発な活動に繋がっていた。担当部署が違うかもしれないが、そういった意味で小規模事業所を総合的に調べていく必要はあると思う。

委員；目標値としてはある程度決めていかないといけないということであるが、府中市全体を把握するという点に関してはデータを経済的なことも絡めていただきたい。目標値は今日すべて決めるわけではないので、今の意見をいただいた中で、事務局のほうで検討し示していただくということでもよろしく願います。あとは、総合戦略・総合計画・アンケート等との整合性を考えて指標を作っていただきたい。

委員；保育所の人材は足りているのか。

事務局；保育士については今のところ足りている状況ではある。

委員；看護師についても言えるが、在宅で働いていない人が増えており、結局人材不足ということになっている。そういったところで保育士は足りているのか。

事務局；子どもの数が増えると保育士が必要になってくる年度途中の人材確保については、苦慮している状況。在宅の方を探すのも困難な状況。

委員；人材の育成も大切である。医療もそうだが、医療機関や施設が必要なのはわかっているが、働く人がいない。府中市の人口ピラミッドを見ると、若い世代が少なくなっていて、特に女性が少なくなっている。やはり人材育成を図るということは、次世代創造には必要なことではないかと思う。

委員；雇用に関しても次世代分科会のひとつの議論であるところ。これからまたそういったところも進めていかななくてはいけない。

事務局；学校が進めているキャリアスタートと絡み合わせて自立を含めて、中学生という若い世代のうちから人材育成をしていくのも必要だと感じる。

委員；地域型保育事業の認可の説明の際に、保育士について1人は看護師でもいいと言われていたが、保育士でなくても看護師でもいいということか。

事務局；0歳児を受け入れている保育所については、看護師等も有資格者として1人に限りみなすことができるとなっている。

委員；看護師でなくてはならないということではなく、看護師でもいいということか。

事務局；そのとおり。病児保育や病後児保育となると看護師でなくてはならないということがある。

委員；人口の表で2040年には15～64歳の人が減ってしまうということだが、産まれていないのと合わせて、就職で他市へ行ってしまうというイメージか。人材育成してとどまってもらわないといけない。総合的に考えないと、10年後、20年後に結果が望めないと思う。

他県のある小さな町では、0～5歳まで保育料無料、0歳～中学校までは給食費無料、0歳～高校生まで医療費が無料というところがあった。その背景はよくわからないが、移り住もうかと思うくらい驚いた。

また、別の県の市では、市長と保護者がいろんなことを話せる場を定期的に設けられているところがあった。市民の思いを座談会のような形で直接市長と話されていた。すごく和やかな雰囲気だと聞いた。また、市長のほうから保育所を使わせて欲しいと声がかかり、喜んで来られるとも聞いた。いろいろ聞いて、お金がかかることもあるかもしれないが、府中市にも何か目玉となるものがあるといいと思う。